

秋の
イベント情報文たび
ツアー企画京都再発見のインビテーション
12月9日(日) 雨天決行大学時代を過ごした、懐かしい京都を
ふたたび歩いてみませんか？

くわしくはP.3まで

Vol.4 October 2012



ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 中小路 宗隆

この度、会長に就任させて頂きました中小路でございます。

立命館大学卒業後すでに半世紀以上も経過しており、時代感覚のズレも甚だしく、分外の大役として固辞いたしました。どうしてもとの事でございましたので、僭越ながら未熟を顧みず引き受けさせて頂いた次第です。

さて、我が国は昨年の東日本大震災と東電原発事故によって未曾有の被害を受け、いつになればこの被害を克服出来るのか全く見通しが立たない程深刻な状況であり、被害を受けられた私達の校友もその実数は把握出来ない程であるということです。

私は学生時代能楽部に所属していましたが、後輩の一人に被災地の河口近くで蒲鉾の製造販売を手広く営んでおられた某氏は工場・自宅共一瞬にして押し流され、幸い家族は無事ながら従業員3名の尊い命を失いました。茫然自失、一時は廃業まで決意しつつも、周囲の人達に励まされて何とか再建まで漕ぎつけ、莫大な借財をかかえながらも必死の努力を続けておられるそうです。

ここに改めてこの度の大災害によって亡くなられた人達の御冥福と

一日も早い復旧復興を衷心よりお祈りいたしますと思いますが、同時に文明の力を過信し、自然を征服したいと考えた人間の驕りそのものを深刻に反省しなくてはならないとも考えています。

さて、文学部校友会は結成後未だ日も浅く、運営面で改善すべき点も少なからずあるのではないかと思います。

例えば現在総会は隔年に開催されていますが、果してそれで良いのか、また、専攻毎に結成されている同窓会が互いに情報交換することによって連繋し刺激し合う事が出来るよう私どもがそのお手伝いをする事が出来ないだろうか。更には各学部校友会が同様な方策を講じる事で大学校友会の発展に貢献する事が出来ないだろうかなど夢はとめどもなく拡がって参ります。

いずれにせよ現在の小・中・高・大学・大学院と全国展開する立命館の底力に心強いものを感じつつも、少子化が急速に進み激化する私学のサバイバル競争に生き残って行かなくてはならない現状に鑑み、校友会として少しでもお役に立つことが出来ればと考えています。

どうか今後とも御指導、御鞭撻賜わり会の発展の為に協力下さいますようお願い申し上げます。

(1955年 哲学専攻 卒業)

CONTENTS

- 01 LETTERSクイズ
2011年度 決算報告
- 02 文学部校友会活動報告
- 03 特集① 秋のイベントのお知らせ
04 ～京都再発見のインビテーション～
ご挨拶 ～現在の文学部～
立命館大学文学部長 桂島 宣弘
報告
2011年度文学部校友会第3回総会開催
- 05 特集② 文学部校友の「いま」
- 06 文学部イベントスケジュール
「末川 清先生を偲ぶ会」の報告
- 07 Information

LETTERS
クイズ

立命館創始者、中川小十郎さんです。
正解は①～③の何番でしょう？

1



2



3



正解者の中から抽選で10名様に文学部校友会グッズをプレゼントします。
「応募方法」クイズの答えとお名前・ご住所・ご感想をご記入の上
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学文学部校友会事務局 までお送り下さい。
発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募締切

2012年10月25日(木)消印有効

文学部校友会活動報告



卒業記念品

2012年 総合プログラム卒業

高岡 あやの さん

大好きな京都で過ごした4年間は、私の人生に於いてかけがえない宝物です。日本の伝統文化を育み、発展・継承させてきた京都の町で、その魅力を身近に感じながら自由に学ぶことができた環境に感謝しています。大学での学びは勿論ですが、その他にも所属していた文化財研究サークルでの活動や日々の生活、そこで出逢った友人や地域の人々によって京都独自の豊かで深い魅力を知り、私はこの町の虜になっていきました。

卒業記念品で頂いた書籍は、多くの人々にとって大学生活を色鮮やかに蘇らせてくれる存在だと思います。現在私は京都を離れ地元で就職をしていますが、時には本のページを捲り、学生時代を思い出しながら京都に想いを馳せたいと思います。

文学部ゼミナール大会 校友会長賞

若者の海外旅行離れ対策における今後の方向性

大島 知典 さん 受賞当時 英米文学専攻 3回生
(飛び級入学試験により現在は立命館大学大学院経営学研究科企業経営専攻博士課程前期課程に在学中)

私は2011年度の文学部ゼミナール大会にて、「若者の海外旅行離れ対策における今後の方向性」について発表しました。私自身も海外旅行に何度も行っているわけでもありませんし、最初は特に問題ないのでは、と思っていました。しかし、研究を進めていくにつれて、その要因が金銭的な問題だけでなく、海外への関心が希薄化していることも分かりました。今後、国際競争力がより重要とされる一方で、このような傾向は由々しき事態です。海外旅行という手段を用いることで、若者が海外に関心を抱く環境を、産官学が連携して整えていく必要があるのではないのでしょうか。

現在、私は経営学研究科に所属しており、旅行会社の持続可能なビジネスモデルについて研究しています。若者の海外旅行離れと直接関係はないですが、旅行会社のマーケティングによっては、若者の海外旅行需要を喚起する可能性があります。業績を上げながら、社会に貢献するといった、理想のビジネスモデルを構築できたらと思っています。

最後に、文学部の自主ゼミで「地域観光学研究会」というものが存在します。ここでは、観光関連の研究や実務、ボランティアなどに学生が積極的に取り組んでいます。興味のある方は是非、地域観光学研究会に訪れてみてはいかがでしょうか。

文学部新入生歓迎企画 学部の学びと将来進路
～「なりたい自分」になるために～

2012年4月1日(日)に文学部の全新入生を対象とし、4名の文学部卒業生の方をお招きして「文学部の学びと将来進路～『なりたい自分』になるために～」を開催しました。この企画の狙いは、学部で学ぶなかで身につけたことが社会で役立つこと、学部や正課外(ボランティア、クラブ・サークル、エクステンションなど)での学びに積極的に参加することが人間的成長に繋がり、確かな進路の実現に近づけることをモデル(OB・OGのみなさん)のお話を通じて新入生に伝え、大学での学びに積極的に参加させることにあります。当日は2会場に分かれ、教員のコーディネートにより、パネルディスカッション形式で卒業生のみなさんからお話を伺いました。新入生が大学での学びに積極的に参加していく契機となる有意義な企画となりました。

株式会社ユー・エス・ジェイ 勤務

宋 陽 さん 2011年 心理学専攻卒業

新入生オリエンテーションに参加させていただいて、立命館大学の未来を創り出す新入生たちと触れ合い、私自身の大学生活を振り返り、改めて立命館大学で4年間を過ごせたことを誇りに思いました。企画にご招待いただいた職員の方々に本当に感謝しています。

企画の中で、私の学生時代に描いた夢や、学問以外の様々な角度から見た大学生活の楽しさを話させていただきました。文学部の幅広い学問領域の中で自ら選択し、学んでいくことの楽しさ、そして充実した課外学習プログラムの中「なりたい自分」をプロデュースしていくことの達成感は、ぜひ後輩たちにもこれからの大学生活で味わっていただきたいと思っています。

私は在学中、心理学専攻でヒトとヒトの見方考え方、ヒトの行動について興味深く学んでいました。現在の仕事はテーマパークの商品開発です。テーマパークで楽しい時間を過ごしていただいたお客様に、「カタチのある」思い出作りにお手伝いしています。お客様のニーズやテーマパークに求められるものについて、心理学で学んだデータ分析のスキルを活かしながら開発に取り組んでいます。

新入生の皆さんにも大学生活に積極的に取り組み、学問の学びや課外活動を通して、自分の新たな可能性を見つけてほしいです。学生から社会人に成長していく過程を楽しみながら、将来誇りに思えるような4年間を過ごすことを心より願います。

2011年度立命館大学文学部校友会決算書 (会計期間: 2011年6月1日～2012年5月31日)

項 目		2011年度 予算額(円)	2011年度 決算額(円)	備 考
収入の部	前年度繰越金	31,930,069	31,930,069	
	会費(卒業生・教職員)	100,000	20,000	卒業生2名
	会費(2010年度卒業生)	11,000,000	12,020,000	文学部校友会費 2011年度1202名
	雑収入	10,000	43,031	普通預金利息(4,531円、 非会員懇親会費等38,500円)
	合計	43,040,069	44,013,100	
支出の部	会報発行	1,500,000	1,215,442	印刷費・送料
	シンポジウム等印刷費	400,000	0	文学部開催シンポ等への参加案内など
	入会記念品	1,000,000	727,362	卒業記念品(2011年度前期、2011年度後期) 会員証作成用文具
	ホームページ開設・運営	100,000	0	委託費
	学生・大学院生支援	250,000	10,000	文学部ゼミナール大会校友会長賞
	校友大会派遣	50,000	0	
	総会開催関係	1,500,000	1,633,222	文学部懇親会関連
	運営関係	1,200,000	210,332	人件費、通信費、会議弁当代、 末川清先生を偲ぶ会関連
	支出予備費	37,040,069	40,216,742	次年度繰越金
	合計	43,040,069	44,013,100	

校友会資産残高(2012年5月31日現在)

京都銀行	40,211,154
現金	5,588
次年度繰越金	40,216,742

～京都再発見のインビテーション～

開催日 12月9日(日) 雨天決行

文学部卒業生の皆様、大学時代を過ごした懐かしい京都をふたたび歩いてみませんか。今回は、京都再発見として学生時代に歩いたところ、その頃はとてもしななかったところを取り混ぜ、「文学部らしさ」「京都らしさ」の企画をご用意させていただきました。晩秋のひとつき、学生時代に戻り修学旅行気分、ご友人ご家族お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

文学部校友会の会員様は、会員価格にてお申し込みいただけます。文学部卒業生で、2007年度文学部校友会発足時に会員でいらっしゃらなかった方は、この機会にぜひ文学部校友会へご加入くださいますようお願いいたします。



Aコース 真下先生と訪ねる一京の祭礼の寺社一

見どころ

Aコース 文学部真下先生と訪ねる一京の祭礼の寺社一
立命館朱雀キャンパス集合・出発→神泉苑→上賀茂神社→山住神社→昼食→廬山寺(御土居)→八坂神社→祇園閣→東寺(五重塔初層内部・観智院)→京都駅八条口

祇園祭ゆかりの神泉苑や八坂神社、葵祭社頭の儀が行われる上賀茂神社、石座(いわくら)神社の火祭りの御旅所で巨岩をご神体とする山住神社など、長い伝統を有する京の祭りにゆかりある寺社を訪ねて祭祀空間の意味を考えます。また、大学の旧広小路キャンパス清心館に隣接し、そこから望み見ることのできた廬山寺は紫式部の邸宅跡とされる地で、豊臣秀吉が築いた御土居の跡がよく実見できる場所。祇園祭の鉦を模した東山の祇園閣からの眺望は絶景というべきもの。そして最後、東寺の五重塔内陣や講堂の立体曼荼羅など、荘厳な仏の世界を体感していただきます。



添乗アドバイザー:立命館大学 文学部 真下 厚先生
旅行代金:文学部校友会員4,000円、会員外14,000円
所要時間:9:00～17:30(京都駅八条口到着予定)
昼食会場:山ばな平八

Bコース 京の文化・おもてなし体験

見どころ

Bコース 京の文化・おもてなし体験
立命館朱雀キャンパス集合・出発→香老舗 薫玉堂→富田屋、町家でくらしの体験→花見小路散策→昼食、お座敷舞妓体験→建仁寺、写経体験→京都駅八条口

大学在学中にはできなかった“大人の京都観光”をテーマとし、体験を多数組み込んだコースとなります。初めに創業300年以上の歴史を持つお香の老舗、薫玉堂にてお香の魅力に触れ、その後京都の一般庶民の伝統的な家屋、町家の見学へと向かいます。富田家では今なお受け継がれる京都の伝統的な風習や生活を学びます。昼食は大人の街「祇園」の花郷にて、舞妓の芸を見ながら京懐石に舌鼓をうち、最後に建仁寺で写経を体験します。精神を清め、内なる自分と向かい合うことで明日への英気を養い今回のツアーの締めと致します。



添乗アドバイザーはおりません
旅行代金:文学部校友会員9,000円、会員外19,000円
所要時間:9:00～17:30(京都駅八条口到着予定)
昼食会場:花郷

お申込方法

会報の巻末に綴じ込みのハガキをご利用ください。お電話によるお申込みはいたしておりません。定員を超えるお申込みがあった場合は抽選となります。お申込みいただいた方の中から、当選者のみに10月31日(水)までに決定通知書を発送いたします。

お申込期間 2012年10月15日(月)必着でお願いします。
募集人数 先着順ではございません。
各コース25名(最小催行人数15名様)
お申込みの人数が15名様に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

※当日の集合場所は、立命館朱雀キャンパスとなります。(JR・地下鉄二条駅より徒歩2分です。)
※諸事情により、行程・時間等に変更が生じる場合がございます。
※お申込みいただいた方の個人情報は、本事業の実施以外に利用することはございません。

お問い合わせ先 立命館大学文学部校友会事務局
TEL:075-465-8187
月～金(祝日除く)9:00～17:30



ご挨拶 ～現在の文学部～

文学部校友の皆様には、日頃から文学部へのご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。おかげをもちまして、文学部は創立85周年を迎え、教育・研究面でも内外から高く評価されるに至っております。

さて、文学部では、2012年、戦後最大といわれる改革を実施しました。学生諸君が多角的視点から人文を学べるように、幾つかの専攻を組み合わせた学域を構成し、入試も学域単位で実施し、専攻には二回生から所属するカリキュラムとしました。また、学域では、高校から大学への移行をスムーズに行い、じっくりと専攻を選択できるようにするために、初年次教育、キャリア教育を大幅に充実させました。さらに日本文化情報学専攻、考古学・文化遺産専攻、現代東アジア言語・文化専攻、地域観光学専攻などを新たに設置し、より多彩な人文を学べるようにいたしました。こうした改革によって、21世紀の新たな人文的知を発信できる体制が整えられたものと確信しています。

立命館大学文学部長 桂島 宣弘

国際化に関しましても、昨年文学部は文部科学省から日本の私立大学では唯一「キャンパスアジア拠点校」に選定されました。これにより、二～三回生次の二年間にわたり日中韓三大学(立命館大学・広東外語外貿大学・東西大学校)のキャンパスを一学期ずつ移動して学ぶ他に類例のない仕組みを作り上げました。また、カナダ・アルバータ大学との間で二つの学士を取得できるDUDP制度を開始するなど、英語圏についても国際教育の充実に努めております。

施設面につきましても、現在清心館の改修を進めておりますが、2020年までには全く新しい清心館となる計画も立てられております。このような文学部の発展も、校友の皆様方の社会での活躍、および文学部への厚いご支援の賜物と思っております。この場をお借りしてお礼申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜れば幸甚に存じます。



キャンパスアジアパイロット候補生オリエンテーション風景

報告 2011年度 文学部校友会 第3回総会 開催



2011年11月27日(日)、衣笠キャンパスで2011年度校友会総会を開催いたしました。午前は20代の若手校友を対象とした若手交流会と毎年好評のキャンパスツアーを企画。午後からの総会では、校友会長職に哲学専攻出身の中小路宗隆氏にご就任いただくことが満場一致で決定しました。引き続き行われた講演会では、京都学プログラム 河原典史教授から「立命館大学野球部の台湾遠征:1927年の2勝2敗」と題して、立命館大学野球部の遠征をめぐる植民地期台湾の背景についての講演を、また日本史学専攻 杉橋隆夫教授

から、「立命館大学文学部校友会設立の経緯について」と題した講演をしていただきました。

その後、諒友館食堂に会場を移した懇親会では「立命館大学メンネルコール」が素晴らしい歌声を披露し、アンコールの声がかかるほどでした。懇親会の最後は新幹事・東上さんのハーモニカ伴奏に合わせて肩を組み、「立命館大学校歌」や応援歌「グレーター立命」を斉唱し、和やかな雰囲気の中に閉会となりました。



文学部校友の「いま」

ネパールに馳す
癒しの旅を続けて！

辻石 泰之 ●つじいし やすゆき

1966年 日本史学専攻卒業
立命館大学に就職、
エクステンションセンター課長職を経て退職後、
京都嵯峨芸術大学に勤めた。

思えば1978(昭和53)年から、15年間という長きを母校の就職課で働いていたことになる、その頃巣立った学生は早や50代半ばになり、頂いた年賀状の中には「息子(娘)が結婚しました・・」というのもチラホラ。そういう自分もすでに古稀を過ぎ「とき、まさに矢の如し」を実感する。

地元「高槻島本校友会」の常任幹事の関係でときたま朱雀や衣笠キャンパスを訪ねるが、図書館や人事課(職員)時代の尽きぬ思い出は、なんといっても広小路学舎であっただけに、いまま荒神口界隈を歩くと胸が熱くなる。



熱い話のついでに、実は5年前ある学生たちと世界最貧国のひとつ「ネパール」に同行する機会をもった(ネパール=インドの北・首都はカトマンズ)。以後、今年の4月を含めて(約2週間の一人旅は)もう4回目になる。

ヒマラヤ登山の拠点「ポカラ」(首都から飛行機で30分・バスだと約7時間)という美しい街に魅せられ、同時に貧しいが故にこころ温かいこの国の子どもたちに何かしてあげたいという思いが年々つのってきた。往復3、4時間かけて山あいの小学校へ日本の文房具・遊具・菓子などリュックにいっぱい詰めて出発。キュートな瞳が輝き、1本の鉛筆を高々とあげて喜ぶ子どもたちの姿は日本では見られない。一般家庭は朝晩2食、今

も昼夜を問わず毎日6時間近い停電、冷蔵庫も扇風機もなく、冬場でも冷水で体を拭くだけの生活、湖畔には洗濯ついでに長髪を洗う女性の姿、大通りを悠々と闊歩する牛(現地では「神様」)など、戦後間なしに見た日本の原風景がよみがえる。

これからも太平洋の一滴にも満たないこのささやかな旅、愛してやまない“ネパール癒しの旅”を続けていきたい。折しも今日8月20日、日本女性ジャーナリスト山本美香さんが、シリア戦乱の激戦地で民兵に銃殺されるという訃報が…。小さな癒しの旅が、世界の“平和の芽”になるよう祈りつつ(合掌)。

みなさんのご健勝をお祈りしてNamaste。

夢を追いかけて！

藤 由加里 ●ふじ ゆかり

2011年 英米文学専攻卒業

みなさんの“夢”は何ですか？

「私の夢はパティシエになることです」こうやって胸を張って言えるようになったのもここ最近の話です。

大学を卒業後、世間で言う“大手企業”に就職し、証券営業をしていました。周囲からは企業名を言うだけで「すごいところですね!」「かっこいい!」と言われました。

就職氷河期と騒がれた時期の就職だったこともあり、始めは素直に嬉しかったですが、やはり幼い頃からの夢は忘れられず…

そんな中、営業先で何人もの企業経営者、税理士や医師の方々(=夢の為に邁進するの方々)と出会い“夢の大切さ”に気付かせていただき、背中を押していただきました。

その後、会社を辞めることを周囲に話すと“予想通りの意見”と“予想外の意見”にぶつかりました。前者はご

写真／辻製菓専門学校 衛生師本科
瀬戸山先生とともに

く一般的な意見で「このままいくと安定した生活も保証され、勝ち組になれるのに…」と言われました。後者で驚いたのは「夢があること自体が羨ましい」という意見でした。

いろいろな意見の中で気付いたことは、「大企業だからといって、そこで働く人が一生幸せかというと、そうではない」とことです。“安定した生活”といっても、今の政治・経済状況で安心できるでしょうか？何より“人生の勝ち組”とは何でしょうか？

私は“死ぬその瞬間に悔いが残らない”ということがまさに勝ち組と言える気がします。「何も挑戦せず、妄想で満足する大人にはなりたくない」「自分の子供に胸を張れる人生を送りたい」それが今思うことです。

偉そうに言っていますが、まだまだ夢を追いかけて始めたばかりです。これから先は全く見えてきません。不安なっていくらでもあります。でも一つ言えることがあります。

“誰よりも幸せです”

来春からフランスへ行きます。これからも強く前に進めるよう、毎日を大切にしていきたいです。

最後に読者の方々へ質問です。
～みなさんの“夢”は何ですか？～

2012年度 哲学同窓会
総会・記念講演会・懇親会のご案内

日時 10月13日(土)午後4時～(3時30分受付開始)

会場 衣笠キャンパス至徳館3F

記念講演会	午後4時～5時	304西会議室
総会	午後5時～5時40分	304西会議室
懇親会	午後6時～8時	304東会議室
※参加費 5,000円(但し学生・院生は2,000円)		

記念講演会

講師●服部 健二(学校法人立命館 副理事長)

演題 「立命館大学哲学専攻の思い出」

※服部先生から学んだ卒業生の方、是非ご参加下さい。



「末川清先生を偲ぶ会」のご報告

2011年11月1日に逝去されました末川清立命館大学名誉教授(元立命館大学文学部教授 専門分野:西洋史学・ドイツ近代史)を偲び、去る2012年3月10日(土)に立命館大学衣笠キャンパスの清心館549号教室にて「末川清先生を偲ぶ会」が開催されました。年度末の繁忙のなかにもかかわらず、先生ゆかりの約180名の方がご参列されました。

まず、故人を偲んで黙祷を行い、その後、桂島宣弘文学部長・文学部校友会顧問より哀悼のご挨拶がありました。先生ご自身の文章の朗読を行ったうえで、瀬原義生立命館大学名誉教授や中井義明立命館大学文学部西洋史学専攻同窓会会長をはじめとする親交の深かった方々から、生前のエピソードなどをお話いただき、故人を偲びました。最後にご家族よりご挨拶をいただき、参列者は先生のお人柄や懐かしい思い出を胸に留めながら、「末川清先生を偲ぶ会」を終りました。(H・N)



退職

文学部に着任以来、長きにわたり教育・研究ならびに大学運営にご尽力頂きました下記の先生方が2013年3月31日をもって定年を迎えられます。退職記念講義が行われる場合は文学部校友会HPでお知らせしますので、ご確認ください。

★立命館大学文学部校友会ホームページ <http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

<2013年3月 ご退職>



林 信弘先生
人間研究学域
教育人間学専攻
教授

1977年4月着任



中西 健治先生
日本文学研究学域
日本文化情報学専攻
教授

2004年4月着任



和田 晴吾先生
日本史研究学域
考古学・文化遺産専攻
教授

1985年10月着任

伝言板

■日本文学専攻

<論集>

日本文学専攻の彦坂 佳宣先生が今春退職されました。これを記念して「論究日本文学」第96号は「彦坂 佳宣教授退職記念号」として刊行(2012.5)。240頁近い、従来にない分厚い論集となりました。

■西洋史学専攻

<報告>

2012年3月10日に末川 清先生を偲ぶ会を西洋史学専攻同窓会も共催。
※P7でも末川 清先生を偲ぶ会の開催報告をさせていただいております。



■文学部校友会HPリニューアルします。

HP:「立命館大学文学部校友会」で検索

URL:<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

■今回より文学部校友会会報は文学部卒業のすべての校友に配布することになりました。

■2012年度より、専攻同窓会・ゼミ同窓会の活動に補助を行うことになりました。ご希望の方は文学部校友会事務局までお問い合わせ下さい。

立命館京都文化講座「京都に学ぶ」ブックレット第2期 第8巻「京の文化と芸術」の刊行のお知らせ



立命館大学文学部では、2007・2008年度の2年間、立命館東京キャンパス内で「立命館京都文化講座」を開講し、講義録ブックレット「立命館京都文化講座『京都に学ぶ』」シリーズとして全国書店にて発売中です。このたび、第2期(2008年度の講義分)4冊シリーズ最終巻、第8巻「京の文化と芸術」を刊行いたしました。

■お電話でのお申し込みの場合は、
文学部事務局(075-465-8187)までお問い合わせください、

文学部校友会入会のご案内

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立され、設立年度にご賛同いただいた会員の皆様が約1,000名、2007年度以降の卒業生の会員の皆様が約5,400名、現在、約6,400名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、幅広い卒業生のネットワークを構築し、文学部卒業生として卒業後も交流していただくこと、その中で学生・大学院生を見守り、ともに後輩を育てていただくこと、これらには大きな意味があると考えております。

専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生のみならず文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。

校友会入会については、終身会費として1万円の会費の納入をお願いすることとなります。文学部校友会の趣旨をご理解のうえ、ぜひ文学部校友会へご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【文学部校友会入会手続きについて】

2006年度以前のご卒業の方が、新規に入会をご希望される場合は、お手数ですが、下記までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

立命館大学 文学部校友会 電話:075-465-8187(文学部事務室内)
mail: ltalumni@st.ritsumeit.ac.jp

立命館大学文学部校友会公式Facebookページを開設しました。



立命館大学の公式Facebookページを開設しました。

こちらでは文学部所属の先生方の活動・専攻同窓会の最新情報・校友会の動きなど常に最新情報をお届けします。

アカウント名/立命館大学 文学部校友会